

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

事業所番号	4670102690
法人名	有限会社 ライフサポート
事業所名	グループホーム たんぼぼの里
訪問調査日	平成21年8月7日
評価確定日	平成21年8月31日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670102690
法人名	有限会社 ライフサポート
事業所名	グループホーム たんぼぼの里
所在地	鹿児島市下福元町6718番地 (電 話) 099-210-8812
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成21年8月7日

【情報提供票より】(平成21年6月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年7月26日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	29 人	常勤	21 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 24.8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(6月30日現在)

利用者人数	27 名	男性	3 名	女性	24 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	7 名	要介護4	5 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.4 歳	最低	71 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	敬愛クリニック 鹿児島生協病院 鹿児島日赤病院 永山歯科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近くに大型商業施設や物産館等があり、遠く桜島を展望できる見晴らしの好い場所に建てられたホームである。「地域の中でその人らしく安心して暮らし続ける」という理念を基に、各ユニット毎に具体的な年度目標が掲げて日々のケアに取り組んでいる。看護師や栄養士の有資格者もあり、医療機関との連携も緊密に行われているため、健康管理面での支援体制が充実している。年1回の一泊旅行や毎月の外食機会もあり、利用者やご家族にも喜ばれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題は無いが、評価結果に関してはミーティングで報告し運営に活かしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価を行い、各ユニットの管理者がとりまとめを行っている。前回の評価結果に関しては、ミーティングで内容を報告し、さらなる質の向上に向けて取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	民生委員や町内会長、ご家族などが参加されており、行事報告や外部評価結果について報告している。参加者からの意見や提案をもとに、サービスの質向上に向けて取り組んでいるが、今のところ、行政や地域包括支援センターからの参加は少ない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居時には、苦情の届出先や行政の窓口について説明を行っている。ホーム玄関に意見箱を設置するとともに、苦情処理委員会も設けている。また、家族会の際、ご家族同士で語り合える場を設けるなどして、意見を表出しやすいように工夫している。さらに、ご家族に向けて、アンケート調査を開始している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	民生委員や町内会長に協力してもらい、地域との交流に努めている。地域の運動会や夏祭りに参加したり、小学生のボランティアを受け入れたりしている。公民館で講演会を主催して、地元の方々にも参加していただいている。

2. 評価結果詳細

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中でその人らしく安心して暮らし続ける」という、地域密着型サービスとしての役割を盛り込んだ基本理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示するとともに、毎朝の申し送り時に唱和している。各ユニットでは、理念を基にして年度目標が作成されており、具体的な実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民生委員や町内会長に協力してもらい、地域との交流に努めている。地域の運動会や夏祭りに参加したり、小学生のボランティアを受け入れたりしている。公民館で講演会を主催して、地元の方々にも参加していただいている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を行い、各ユニットの管理者がとりまとめを行っている。前回の評価結果に関しては、ミーティングで内容を報告し、さらなる質の向上に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や町内会長、ご家族などが参加されており、行事報告や外部評価結果について報告している。参加者からの意見や提案をもとに、サービスの質向上に向けて取り組んでいるが、今のところ、行政や地域包括支援センターからの参加は少ない。	○	地域の方々に加えて、行政や地域包括支援センター職員からも率直な意見をもらい、サービスの質向上に活かすために、今後も参加の呼びかけを続けていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	諸手続きで市役所に出向いた際、担当者と話をする機会を持つようにしている。その他、必要に応じて、電話で連絡を取っている。認知症実践者研修の実習施設として、受講生を受け入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態は、毎月のホーム便り「たんぼぼ通信」に、利用者毎のコメントを記入して送付している。金銭管理については、小遣い帳の写しを送付して確認していただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時には、苦情の届出先や行政の窓口について説明を行っている。ホーム玄関に意見箱を設置するとともに、苦情処理委員会も設けている。また、家族会の際、ご家族同士で語り合える場を設けるなどして、意見を表出しやすいように工夫している。さらに、ご家族に向けて、アンケート調査を開始している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、離職や異動による影響を理解している。職員の交代がある場合は、必要に応じて十分な引継ぎ期間を設けるなど、利用者へのダメージを防ぐ配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の勉強会で課題を設けて取り組んだり、外部の研修会にも積極的に参加するなどして研鑽に努めている。	○	研修機会は十分確保できているので、今後は、職員の経験や力量に応じて段階的に育成するための計画を立て、さらなる資質の向上に努めていただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の各事業所間で実践発表を行い、定期的な交流と意見交換を行っている。また、他ホームの見学会や研修会への参加、職員同士の交流等を通して、互いにサービスの質向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人やご家族に見学に来てもらったり、入居に際しては十分な説明を行うことで、ホームの雰囲気を理解してもらうなど、早く馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人やご家族から得た生活歴等の情報を活かしながら、畑づくりや調理、方言や昔の地理等を学ぶことを通して、互いに支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族から得た情報に加えて、利用者の日常的な会話や行動などから希望や意向を把握するように努め、本人本位のケアを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人やご家族の意向を把握し、かかりつけ医の意見書や受診時に記載してもらった病院受診連絡票を基に、カンファレンスや勉強会で話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画期間に応じた見直しに加えて、毎月モニタリングを行っている。期間途中でも、利用者の状態に変化が見られた際には、随時、必要な関係者と話し合い、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	美容院や買い物、病院受診の付き添い等を、本人やご家族の状況に応じて柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者やご家族の意向に沿ったかかりつけ医や医療機関において、適切な医療が受けられるように、通院介助や訪問診療の受け入れなどの支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際に、「医療連携体制同意書」、「重度化した場合の対応に係る指針」を基に、ご家族に説明を行っている。その後も機会をみて、「終末期の介護と延命治療」についてご家族から意向を聞き、関係者全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の誇りやプライバシーを損ねることが無いように、言葉かけや対応には十分に留意している。申し送り等は、個人情報の保護に配慮して事務所内で行っている。ホームに掲示している写真や名札に関しては、入居時に本人およびご家族に説明し確認をいただいている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるものの、利用者の状態やペースに合わせて、昼寝や入浴、買い物など、それぞれの希望に沿った生活が送れるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で育てた野菜を収穫して調理したり、利用者と職員が一緒になって下ごしらえや配膳、後片付け等を行うなど、食事を楽しむことができるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の生活習慣や希望にあわせて入浴できるように配慮している。拒否気味の利用者には、馴染みのある職員が対応して入浴を促すなど、工夫しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物や散歩をはじめ裁縫や料理、踊りや読書など、利用者の生活歴や得意分野、興味を考慮しながら、張り合いと喜びのある日々を過ごせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の希望に沿って、散歩や買い物等が随時行えるように支援している。歩行困難な方の場合にも、リフト車を活用して車椅子で外出できるように支援している。また、年に1回、利用者と職員と一緒に一泊旅行に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中施錠は行われていない。利用者が外出されそうな場合には、声をかけた上でさりげなく付き添って見守りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを作成しており、消防署の協力のもと、年2回の防火訓練が利用者も参加して行われている。町内会長や民生委員をはじめ近所の方々にも立ち会ってもらっており、運営推進会議では、地域の協力体制について働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員に栄養士資格者がおり、献立内容のチェックを行い、栄養バランスに配慮した食事が提供されている。食事摂取量や水分摂取量はチェック表が作成されており、一日を通じて必要量が確保できるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒に考えたり、アドバイスをもらいながら生活感や季節感が出せるように工夫しており、不快な音や光は感じられない。ホールにはソファやテーブルが置かれ、新聞や雑誌を読んだりテレビを観たりして、思い思いに過ごせる共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や仏壇、テーブルや三面鏡、テレビなど、利用者にとって馴染みのものや使い慣れたものを持ち込み、本人が安心して居心地よく過ごせるように配慮している。		